

見創見 Tuesday

タイミングでかかってくる親父からの電話は、たいてい「山菜、食うか?」。

山菜系YouTubeer(ユーチューバー)の動画を親父といっしょに見たら、盛り上がりがあった。僕の知らないことを話して教えてくれる親父は頼もしい。親父は60代、

休日、うちの親父はどこに行っているのだろうか? といっても、何も不穏な話ではない(そんな話、新聞になんて書けません)。

親父の顔は、いつも白濁げにニヤニヤしている。南部弁で言えば、ゴツリしている。そんな親父の山菜を凶々しくも毎度もらい続けていたが、その山菜を親父はどこで取っているのか? という肝心なところを、僕は今も知らないままでいる。

聞く。昔から、山菜の場所は親子でも教えないものと相場が決まっているらしい。その上、親父と雑談しても続かないので、聞かずにいたのだ。しかし、そんな状況にも変化が訪れた。きっかけはYouTube(ユーチューブ)だ。

地元YouTubeのススメ



たまき・しんいちろう
1977年、八戸市生まれ。八戸高、東京工業大、北陸先端科学技術大学院大を卒業。2001年、任天堂に就職後、プランナーとしてゲーム機「Wii」を企画担当。退社後にオンラインで企画コンサルティング業を営む。著書に『「ついで」やってしまおう! 体験のつくりかた』など。

玉樹真一郎
八戸学院大 地域経営学部 特任教授

親父と山菜採りに行く日

僕は40代。こんな年になって、あらためて子育てをされているような感じがして気恥ずかしくなるけれど、悪い気分でもない。へー、ほーと聞いているうちに、一緒に山に行く話まで出てきた。

今や娘の好物はコシアブラ

の天ぷらだ。そろそろ僕も山に行かねばなるまい。

それにしても、YouTube。あくまで肌感だが、ここ数年で一気に利用者が広がったように思う。現役世代の人は、たいていYouTubeを見ているのではないか。

LINEやメールの文字入力は大変という人でも、YouTubeはボチボチと選ぶだけではないから、気楽に楽しめているようだ。

たとえば僕は、八戸のトラックドライバーさんのYouTubeが大好きで、特に雪のシーズンは道路状況が見られるので本当に助かった。地域にファンも多く、お仕事を車を運転する人と雑談する時など、本当に重宝する。

奥さんのお母さんは歌謡曲が好きなので、夕食のあと、時々YouTubeで歌謡曲を聞く。「平治二の『パスストッ』って、本当にいい曲ですよね」なんて話をしていると、心底くつろぐ。

奥さんのお父さんとお酒を一緒にするときは、YouTubeと「地図」アプリ。衛星写真を見ながら、「昔ここに映画館があった…」なんて話や、県道の近道を教えてもらうこともできる。わからない話があったら、その場で検索すればいい。

YouTube、地図、検索。これらはすべて、インターネットという情報技術が基礎となっている。インターネットは、現代社会にとって不可欠な極めて重要な技術だ。折しも、小学生の娘には、IGAスクール構想」という国の方針の下、学校から一人一台パソコンが貸与され、情報技術が教育される。

僕はインターネットの可能性を信じている。だから僕は、「これはお前の人生にとって本当に大切なことだよ」と胸を張って、国語・算数・理科

・社会と同じく、インターネットを教えるつもりだ。でも、だからといって、インターネットだけで生きられるとは思っていない。勉強だけでは生きられないのとおなじように。

インターネットは、言わば「最高の話のタネ」。人と人がいっしょに仲良く暮らしていくための道具だ。

現に僕は、インターネットのおかげで親父と山菜採りに行く仲になった。奥さんの家族やいろいろな世代の人と、楽しく雑談することができた。今でも僕は雑談が苦手だけれど、昔だからこゝ共感できた時の喜びは心から温かく感じられる。まるでほろ苦い山菜のような、人付き合いの味。

自然・歴史が豊かなふるさと、雑談が苦手な僕と、YouTube。存外良い取り合わせかもしれない。